

# 横断検索システム I-Scover に関するお知らせ

## I-Scover ビジネス検討タスクフォース

電子情報通信学会では、会員の利便性向上と学会所有コンテンツ類の Web を通じた情報発信による価値向上を目指す上で、統一メタデータデータベースの構築が重要と考え、横断検索システム I-Scover の開発を推進してまいりました。これまでに様々な機能改良を行い、本年 3 月から第 2 期システムのサービス (<https://i-scover.ieice.org/>) を開始したところです。

従来はコンテンツ種類ごとの検索であったものが、I-Scover によりメタデータが学会内で統一され、一元的に検索可能となっており、御好評を頂いております。更に、第 2 期システムでは、I-Scover が保有する文献メタデータを二次利用しやすい形で提供するアプリケーションインタフェース (API) 機能が追加されました。この API を活用することにより、共起語グラフ (同一文献で頻繁に現れるキーワードの関係) を自動生成し、特定のキーワードに関する論文傾向を分析するアプリ

ケーションの開発等が可能となりました (福岡工大事例: トレンド・レポーター (<http://iscover.ce.fit.ac.jp/trend/>)). その他、これまでに API 利活用コンテンツに御応募頂いた作品については、I-Scover ひろば (<http://iscover-p.ieice.org/cms/>) に掲載しておりますので御参照下さい。また、I-Scover には、以下のような使い方もありますので、是非、積極的に御活用下さい。

- ① 特定分野で参考文献として引用されている論文やその著者を検索でき、共同研究者や査読者を選定する際に役立ちます。
- ② 2017 年 3 月からは企業誌も登録を開始しており、企業の研究開発動向の把握にも活用できます。

一方で、I-Scover を維持していくためには、維持費が掛かることから、費用対効果を明らかにする必要があります。I-Scover ビジネス検討タスクフォースでは、I-Scover の費用対効果の測定法について検討してきました。この検討結果に基づき、今年 12 月末まで効果測定を行ってまいります。具体的には、サイトライセンスを決めるダウンロード数と、将来的な広告収入増の可能性を示すアクセス数をカウントしてまいります。

学会として、会員メリットの最大化と財政基盤の健全化の両面を目指していく所存です。会員の皆様方の御理解と御協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

I-Scover ビジネス検討タスクフォースメンバー  
 篠原弘道 江村克己 津田俊隆 今井 浩 守倉正博  
 植之原裕行 中村裕一 辻 ゆかり



I-Scover のトップページ  
<http://i-scover.ieice.org/>



IEICE Knowledge Discovery®  
電子情報通信学会 文献検索システム

# 技術者のための検索システム

論文と論文，論文から人，そして人と人とのつながりを発見する

i-scover 

<http://i-scover.ieice.org/>

スマホ・  
タブレット端末も  
OK!



論文テーマを探す  
技術トレンドを調べる  
しっかりとした論拠が欲しい

著者で検索すると、  
著者の専門分野がわかる  
共同研究者選びに使える

APIを使えば、  
技術変遷等の  
分析ができる



I-Scoverは、2017年3月から  
新しい機能を付加して  
リニューアルしました

キーワードで検索すると、  
該当文献やその著者がわかる  
査読者選びに使える

企業誌も  
検索できる

**I-Scover** (アイスカバー) なら  
関連するキーワードが付与された論文を効率良く簡単に探せます。

名寄せ依頼や国際会議登録方法等は、[I-Scoverひろば](http://iscover-p.ieice.org/cms/)をご参照ください。→ <http://iscover-p.ieice.org/cms/>